

四季折々に美しい箕面の里地里山



五藤池 里山の紅葉

日本の原風景でもあり、長い時間をかけて、人と自然が寄り添いながら、つくりあげてきた里地里山。

ため池は、降水量が少ない瀬戸内地域に多く分布し、箕面市にも、市街地や山間・山麓部に大小77ヶ所のため池があるといわれており、多くは水利組合や市が除草や堤などの管理を行っています。

ため池の水は、農業にとって必要不可欠なもので、水田に安定して農業用水を供給しています。

また、大雨が降っても、一旦貯め込む（洪水調節機能）ことが出来る他、ため池の景観は、多くの人に安らぎと与えてくれるなど、公益的な機能があります。

集落の背景にある山林、そして水田・ため池

一方で、ため池が老朽化し、農業者の減少や高齢化により、手入れがおろそかになると、大雨や地震の際に、危険な状態になる恐れもあります。

また、ため池に一気に水が流れ込まないためには、山林が持つ水源涵養機能（土壌が水を蓄える）や土砂災害を防止機能（樹木の根や下層植生で地表の浸食を抑制）を発揮できるように、ため池上流の集水域である里山の手入れが必要です。

近年、短時間強雨が各地で発生しています。四季折々に美しい里地里山は、公益的な財産として、水利組合や行政、農業者や山林所有者だけでなく、市民も含めて、守り、育て、活かすことが大切です。



芦原池 8月



石丸 6月

したたかな植物の生存戦略（種子散布戦略）

自分では移動出来ない植物、別の土地で芽を出すためにいろいろな工夫をしています。種子に羽根をつけたり綿毛をまとい風に乗せてもらったり、ネバネバやトゲトゲで動物に運んでもらったり、果肉を付けて鳥に食べられることにより種を散布するなど。様々な木の実を観察できるこの季節、箕面の山を歩きながら、植物の戦略を注目してみませんか！



センニンソウ（風散布）



テイカカズラ（風散布）



ゲンノショウコ（自動散布）



アラカシ（重力散布）



オオオナモミ（付着/動物散布）



アケビ（被食/動物散布）



カラスザンショウ（被食/鳥散布）



クマノミズキ（被食/鳥散布）

市民の森「こもれびの森」での活動～外来植物の除去の課題～

市民の森である「こもれびの森」(市有林/生活環境保全林)では、2018年、台風21号の強風の影響により南斜面のスギ・ヒノキの人工林の多くが倒れてしまいましたが、大阪府が倒木の撤去(作業道の敷設)を行い、南斜面3ヶ所で防鹿用の金柵を設置しました。

その後、市民が中心となり、見回りや防鹿柵(金柵以外)の補修、イロハモミジやヤマザクラなど花の咲く木に加えて、コナラ・クヌギの植樹などの活動を活発に行っています。

防鹿柵(金柵)の中では、徐々に植生が復活していますが、問題となっているのは、防鹿柵の外の斜面と作業道です。折角、生えてきた植物は、増えすぎたシカによりほとんど食べられてしまい、この周りでは、センダン、ナンキンハゼ、マツカゼソウ、タケニグサなどシカが嫌いな植物だけになっています。



ダンドボロギクの群落



ヒメムカシヨモギ



ダンドボロギクやヒメムカシヨモギの除去



ダンドボロギク

なかでも、シカが嫌いな外来種ダンドボロギクが、この梅雨明けに、急速に繁茂しはじめました。花期は8月から10月で、この後に、真っ白い綿毛を飛ばして生育域を広げるため、このまま放置しておくとは良くないと考えて、除去することにしました。

ダンドボロギクは先駆種(パイオニア植物)であり、土砂崩れなどで裸地になったときに、いち早く生えてきます。そのうちに他の植物に置き換わるはずなのですが、防鹿柵の外では、置き換わる植物をシカが食べてしまい、裸地状態が継続されてしまうことが問題です。

金柵(Aネット)内のハイキング道については、シカが侵入しないので、ダンドボロギクなど、外来植物や帰化植物を除去しても、多様な植物が萌芽しており、土が露出しているところが、徐々に少なくなっています。

適正なシカの生息密度に頭数管理が出来ていないことが、そもそもの大きな課題です。市民の憩いの場でもある「こもれびの森」では、ダンドボロギクやヒメムカシヨモギ(帰化植物)の群生は、みすぼらしく、金柵外のハイキング道の斜面でも、景観上も好ましくないと考えて、一旦、除去しましたが、適切だったかどうか、今後も経過観察を行っていきます。

市民の森「こもれびの森」～防鹿柵の外、ハイキング道と斜面の課題～



大型重機を入れて倒木を撤去した作業道

表土の流出や土砂災害を防止

市民の森「こもれびの森」は、市民の憩いの場としての保健・休養林としての機能とあわせて、土砂災害を防ぐ機能を発揮させることが大切です。

台風被害による大規模な倒木撤去のためには大型重機を入れる必要があり、比較的、道幅が広い作業道を敷設しました。

作業道を支えている谷側の倒木の根、しばらくは大丈夫かもしれませんが、根が腐って水が入ると、作業道を支える機能がなくなる恐れがあります。

求められる表土の緑化

出来る限り、土が露出して、裸地化している地面を少なくしなければなりません。早期に、樹木の根や下層植生で地表の浸食を抑える必要があります。

シカが嫌いな植物の活用

全ての地面に防鹿ネットを設置することは困難です。シカが比較的嫌いな植物の中から、比較的、景観にも資するような樹種(ミツマタ、アセビ、ウリハダカエデなど)を選んで、来年3月に植樹をする予定です。今年の秋には、種子散布のために、種子を集めることを計画しています。多くの市民の皆さまのご協力をお願いします。



ミツマタ



アセビ



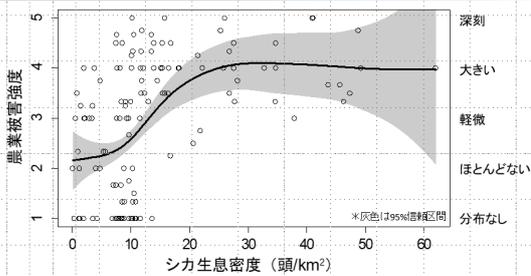
ウリハダカエデ



ウリカエデ

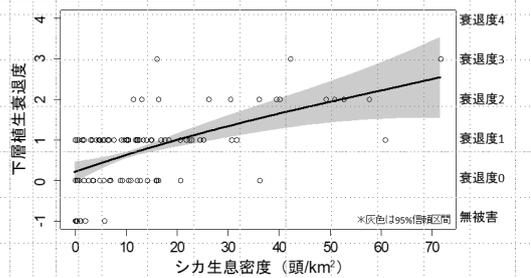
増えすぎたシカによる農林業被害や森林生態系に与える影響

シカ生息密度と農業被害強度の関係



- 10頭/km²程度を上回ると被害強度が著しく増加
- 10頭/km²程度を境に被害強度が4より大きい地域が発生

シカ生息密度と下層植生衰退度との関係



- シカ生息密度増加にともない、森林の下層植生衰退度が増加
- 10頭/km²程度を境に衰退度2以上の地域が発生

出典：大阪府立環境農林水産総合研究所生物多様性センター



農林業被害や森林生態系に大きな影響

1980年頃からニホンジカの生息数は全国的に拡大し、農林業被害や森林生態系に大きな影響を与えています。箕面の森も例外ではなく、農林業被害に加えて、植物の多様性の低下(シカが嫌いな植物の繁茂と希少植物の減少・消失)や他の植物の生息環境への影響(茂みを好む鳥や昆虫の減少など)や、植生が衰退することにより水害や土砂災害の危険性が増加するなどの大きな影響を与えています。

北摂では3500～6300頭が生息

北摂地域104ヶ所でシカ糞の調査から、シカ生息域の中心は能勢・箕面・高槻の3地域で、3,500～6,300頭程度と推定されています。

箕面国有林周辺では、国有林での捕獲が強化される前の平成26年以前は国有林の北側中心にシカが高密度に生息していましたが、捕獲が強化された平成30年以降は、国有林周辺は減少(一部に残存)しましたが、一方で遠方に高密度地域が発生しています。

10頭/km²を上まわると被害が著しく増加

シカによる森林植生被害の状況については、下層植生の植被率から、森林衰退度を6段階で評価しています。シカ生息密度と農業被害強度の関係では、10頭/km²程度を上回ると被害強度が著しく増加します。10頭/km²程度の生息密度を境に被害強度が大きい地域が発生しています。

箕面でも10頭/km²を上回る生息密度

被害低減の目安となる10頭/km²を上回る地域を中心に、頭数管理対策の継続と継続的なモニタリング調査が必要となっています。

シカ高密度地域で植生の衰退が進行しており、シカが減少している地域でも植生の回復には時間がかかることが確認されています。

清水谷での防鹿ネット復旧の活動

明治の森箕面自然休養林管理運営協議会(国・府・市などの行政、専門機関や12の市民団体が構成/事務局は山麓保全委員会)は、明治の森箕面自然休養林(箕面国有林)などを対象として、市民団体が中心となり、自主的な活動により同自然休養林の整備・管理、及び活用を円滑に行う事を目的として、さまざまな活動を行っています。

9月9日(木)、清水谷をまもる会の6名を中心に、林野庁の職員3名に加えて、箕面の山きり隊2名、NPO山麓保全委員会事務局の計12名で、清水谷の貴重な植生を守るために防鹿ネットの復旧を行いました。

山とみどりのフェスティバル 生物多様性研究フォーラム 2022年2月11日(祝)に開催！



毎年11月3日に行っている山とみどりのフェスティバル体験フェア(瀧安寺前広場)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止としました。

生物多様性フォーラムは「箕面の外来生物」の問題をテーマとして、人数限定など感染症拡大防止対策を実施して、開催します。

山林整備サポーター ボランティア養成講座

☆2022年2月11日(祝)午後1時30分～午後3時30分(予定)

☆集合・・・箕面文化・交流センター(阪急箕面駅前)

☆基調講演・・・箕面の森の生物多様性を脅かす外来生物(仮題)

☆講師・・・大阪府立大学 名誉教授 石井 実 氏他

※参加費は無料、事前申込が必要

箕面の山で活躍！山林整備ボランティア養成講座 11月27日(土)開催 受講生募集中！



ボランティア養成講座を受けて、箕面山麓部の山林で、倒木の処理や間伐など、山の手入れを行うボランティアを募集しています。

10月16日開催は定員10名を超えたので受付を終了しましたが、追加開催の要望があり、11月27日(日)にも開催することにしました。

山林整備サポーター ボランティア養成講座

☆2021年11月27日(土)午前10時～午後3時ごろ

☆集合・・・箕面市粟生外院5丁目「皿池公園」、午前9時45分に集合

☆午前・・・基本的な技術や安全知識を学ぶ講義

午後・・・近くの民有林で、倒木処理や間伐を体験

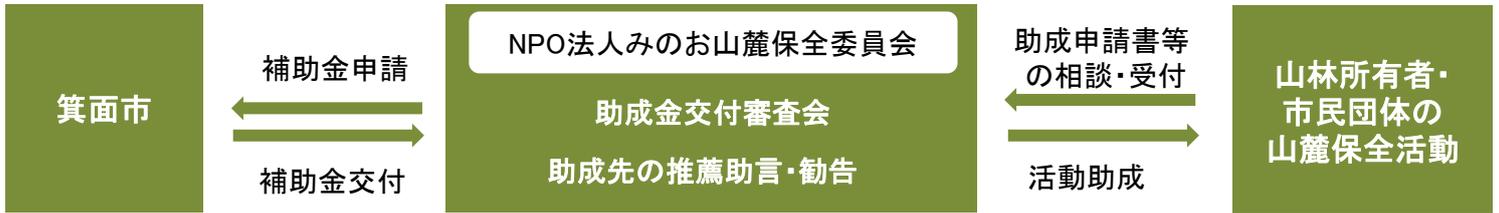
※参加費は無料、事前申込が必要(先着10名)

持続的な仕組みによる 山麓保全活動の着実な推進

みのお山麓保全活動助成金は、四季折々に美しい箕面のみどり豊かな山麓を守り、育て、活かすために、山林所有者や市民の活動を応援(助成)する仕組みです。毎年、前期(2月)後期(8月)にその年度の活動を募集しています。

NPO法人みのお山麓保全委員会は、中間支援組織として、山林所有者や市民の活動支援や助成金を活用した活動の相談や助成申請の受付などの事務を行っています。

《みのお山麓保全活動助成金の仕組み》



2020年度 山麓保全活動助成金 山林所有者による保全活動の概要

○件数・・・82件、助成金額・・・8,256,700円

○活動内容・・・徐間伐46件、倒木処理35件、下草刈22件、枯枝落し20件、除草14件、つる切り13件、枝打ち12件、落葉処理9件、ゴミ処理8件、点検他3件、計179件(複数回答)

○山林整備活動の実施主体・・・共同体(旧村落・寺・水利組合):9件(11%)、共同体以外の個人:24件(29%)
山林整備ボランティア派遣:49件(60%)

みのお山麓保全活動助成 後期(8月期)の助成を決定

2021年後期(8月期)助成の概要

○山林所有者(自然緑地指定同意書提出者)の活動を助成

件数:14件、筆数:43筆、面積:58,866㎡、金額1,370,400円

※山林整備サポート要請件数:10件

2021年度山林所有者からの山林整備サポート要請件数:計51件

※前年より2件増

○市民団体等の活動を助成

件数:2件、金額102,000円



活動団体名	保全活動名	助成金額
01.箕面マウンテンバイク友の会	山麓部におけるモラルやマナー向上と新稲の森での普及活動	¥40,000
02.箕面ナチュラルistクラブ	里山とのふれあいと自然環境保全の普及啓発活動	¥62,000

箕面ビジターセンターの企画・運營業務、山麓保全委員会の提案が選定されました。

箕面ビジターセンターは、明治の森箕面国定公園の利用拠点として、明治の森の地形、地質、動物、植物などの自然環境及び歴史、文化、さらに安全に利用するための利用情報などに関し、国定公園利用者が容易に理解できるように展示や自然解説及び利用案内を行う博物展示施設として、大阪府が設置した施設です。

8月に大阪府の「箕面ビジターセンターの企画運營業務」に係る企画提案の公募があり、NPO法人みのお山麓保全委員会の企画提案が選定されました。

○受託業務期間・・・令和3年10月1日から令和6年9月30日までの3年間

○企画運營業務

- ①自然観察会などのイベントによる自然体験活動、②箕面ビジターセンターだよりの発行などによる普及啓発活動、③展示室の企画運営による環境学習支援、④箕面ビジターセンターに常駐する自然解説員の配置

※事務所の受付など、施設管理業務は別の会社が受託しており、山麓保全委員会が受託した業務ではありません。

多くの団体や市民の皆さまと連携しながら、明治の森を訪れる箕面国定公園利用者に喜んでいただけるような活動を行いますので、皆さまのご指導とご支援ご協力をお願いします。



NPO法人 みのお山麓保全委員会

〒562-0001箕面市箕面6-3-1 みのおサンプラザ1号館2階211号室

電話&FAX:072-724-3615 携帯電話:090-1133-3615

メール:yama-nami@yama-nami.net

ホームページ:www.yama-nami.net(検索:山なみネット)

*箕面の山麓保全情報のポータルサイト「みのお山なみネット」

